

フューチャースクール推進事業評価会 議事概要

1. 日時：平成 23 年 8 月 25 日（木） 10 時～
2. 場所：総務省 6 階会議室
3. 出席者
 - (1)構成員（敬称略）
清水康敬(主査)、石原一彦、金森克浩、小泉力一、長谷川忍、前迫孝憲、村上輝康、矢野米雄
 - (2)事務局
総務省情報流通行政局情報通信利用促進課
4. 配布資料
 - 資料 1 事前評価総括表
 - 資料 2 事前評価集計表
 - 参考資料 1 「フューチャースクール推進事業評価会」開催要綱
 - 参考資料 2 平成 23 年度「フューチャースクール推進事業（中学校及び特別支援学校分）」実施要領抜粋
 - 参考資料 3 報道発表イメージ
 - 参考資料 4 評価基準（事前配布）
 - 参考資料 5 提案書（事前配布）
5. 会議等の公開
以下について、確認された。
 - ・評価会での構成員の発言内容が公になると、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるため、会議は非公開とする。
 - ・議事概要について、開催要綱に基づき、総務省ホームページで公開する。
 - ・配布する資料等について、開催要綱に基づき、「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」（平成 11 年法律第 42 号）に基づき取り扱う。
6. 議事
 - 平成 23 年度フューチャースクール推進事業（中学校及び特別支援学校分）の提案評価について
 - ・事務局より、実施要領において導入する機器は原則「リース又はレンタル」することを明記し公募しているところ、提案案件の中に機材をリース・レンタルではなく購入とする案件があり、提案団体担当者に確認したところ補正の余地がないとのことであったため、本案件については評価対象外となることが報告され、了承された。
 - ・主査より、各構成員の評価点の平均点を当評価会の評価とすることが提案され、了承された。
 - ・主査より、本評価は総務省の評価であるので、最終評価ではなく、文部科学省の評価を加えた形で最終評価となることが報告された。
 - その他
以下のようなコメントがあった。
 - ・予算、教育、技術的な視点の三点が組み合わさることが大事。
 - ・教育への ICT 利活用は諸外国でお金をかけてやってきている中で、本事業で技術がいかに役立つのかという点を見せられるようになると良い。

- ・本事業終了予定後の自治体独自の予算がしっかり確保されることを期待したい。
- ・コストの面から事業が継続されるかについては確かに気になったが、結果として学校規模のバランスは取れたのではないか。
- ・来年度以降の経費について、書いてあるだけで実際はできないということにならないように先のことをしっかりとフォローしていくべき。
- ・病弱特別支援学校では、ネットワークを活用した教育と支援機器を活用した実践に期待したい。
- ・設定したテーマをうまくいかせるように、ネットワークのスピード、クラウド、コンテンツを配慮して、必要となる運営費、通信費等を手当し、確実に事業が実施されると良いと思う。
- ・実証校、特に特別支援については、技術的なアドバイスができる体制を整え、地域協議会において効果的な使い方を考え出せる体制を作るべき。
- ・熱意があるところにフォローをしていき、問題を解決できるようにしていけるようにしたい。
- ・地域協議会へは地域の関係者を入れるべきではないか。
- ・評価会のコメントを委託候補先に反映させるようにすることが必要。

(以上)